

「自律的キャリアを考える」シリーズレポート 第1号「大企業50歳代の憂鬱なキャリア ～約半数が自分のキャリアに不満～」を発行

第一生命ホールディングス株式会社（社長 稲垣 精二）のシンクタンク、株式会社第一生命経済研究所（社長 丸野 孝一）では「自律的キャリアを考える」をテーマに全4回のレポートを発行します。

本年4月には改正高年齢者雇用安定法が施行され、いよいよ70歳までの就労が視野に入ってきました。またメンバーシップ型からジョブ型雇用への移行、副業の解禁、シニア層への成果主義の導入等、人事制度も大きく変わろうとしています。こうした中、「自律的キャリア」や「社員の自律的な成長」などを社員の人財育成方針に掲げる企業も増加しつつあります。

本シリーズでは「自律的キャリアから幸せな職業人生へ」を命題に、シニア就労層の予備軍ともいえる大企業の50歳代社員を主な対象として、現状の課題や方策等についてレポートします。第1号は「大企業50歳代の憂鬱なキャリア ～約半数が自分のキャリアに不満～」とし、キャリアに対する満足度と今後の職業人生の志向を中心としたレポートです。

第1号レポートはこちらをご覧ください。

<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/rp2102.pdf>

《第1号のポイント》

- ① 大企業社員の平均的なキャリアは、50歳代の前半で年収や職位がピークに達し、その後、役職定年等により下降に転じ、定年、再雇用に移行していくというものである。50歳代は、短期間にキャリア上のピークから一気に下降に転じる変化が激しい年代といえる。
- ② 職位や年収など客観的キャリアと、やりがいや自己実現など主観的キャリアの2軸で大企業の50歳代に調査した結果、職位や年収が過去のピーク時点にて、客観・主観の双方に満足している割合が42.2%、双方に不満が39.2%であった。一方、50歳代の現時点においては、双方に満足が34.4%、双方に不満が50.6%と不満の割合が大幅に上昇する。
- ③ 50歳代の現時点において主観的キャリアの満足度の高い群団は、今後のセカンドキャリアにポジティブな志向を示しているが、過去のピーク時点の満足度の高さとは無関係である。充実したセカンドキャリアを送るには、「過去の栄華」に固執することなく、キャリア発達を持続し、主観的キャリアの満足度を維持、向上させることが重要である。

《今後の発行予定》

- ・第2号：「大企業50歳代のキャリア開発の現状と課題」（仮）
- ・第3号：「自律的キャリアを育む組織風土」（仮）
- ・第4号：「自律的なキャリアから幸せな職業人生へ」（仮）

＜お問い合わせ先＞

(株)第一生命経済研究所 ライフデザイン研究部
広報担当 E-mail: koho@dlri.jp
※お問い合わせはメールでお願い致します。
【URL】 <http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi>